

全国初！下水道事業へのコンセッション方式導入（静岡県浜松市）

取組概要

本市下水道事業に11ある処理区の一つ「西遠（せいえん）処理区」について、**下水道分野では全国で初めて「コンセッション方式（公共施設等運営権方式）」**を導入した。

人口 795,928人 (H30.1.1現在)

担当 上下水道部上下水道総務課



西遠浄化センター（提供：旧静岡県下水道公社）

取組の効果

運営権者が、長期間にわたり維持管理と改築を一体的に実施するアセットマネジメント等により、20年間の事業費総額を**86.6億円縮減**し、そこから**25億円の運営権対価を市に支払う**ことで、市民の負担増の抑制が期待される。また、市内本店企業への優先調達や市内在住者の積極採用により**地域経済への貢献**が期待される。

創意・工夫した点

1. 部分型コンセッションで経営・改築・維持管理を一体化
2. 利用料金は一定の割合を乗じて算出・料金改定の提案権限を付与
3. 運営権者は経営・維持管理費用の全てと改築費の一部を負担する
4. ワンストップの改築体制
5. 運営権対価提案方式
6. 3つの監視

他団体へのアドバイス

コンセッション方式などの官民連携手法が全国の下水道事業に導入されるためには、**地域特性を活かした、地域に合った取り組みが必要**であり、最適解は地域によって異なると思う。本市は、コンセッション方式を導入するに当たって、教科書的なコンセッションの内容を**本市の実情に合わせて一部カスタマイズ**し、障壁となる点についても関係省庁と調整し、**法改正や制度改正等の対応**をして頂いた。法律や制度も、決して変えられないものではないという意味でも、本市事例が今後官民連携手法の導入を検討する自治体の参考となれば幸いである。



西遠処理区（緑色）及び対象施設（赤丸）